

「育成年代の指導は、しつけである。」

～ クロード・デユソー（JFAテクニカル・アオバイザー）

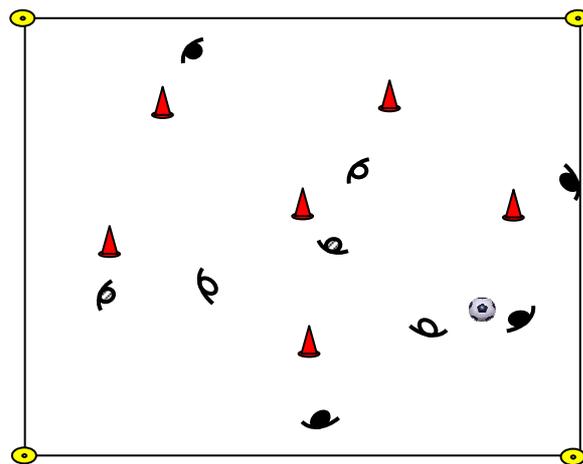
3月15日（土）にNTC山崎氏を迎え、講習会を行いました。指導者対象にはB級レベルのトレーニング、U-11トレセンではC級のトレーニングを行いました。そこであらためて感じたのは、指導者はもっと「サッカーを知る」必要があること、そして「育成年代のサッカーはしつけである」ことでした。20名の参加者に受けていただきましたが、今後は釧路の子どものためにこの輪がもっと広がってほしいと思います。

指導者対象の講習では、「パス&コントロール」をテーマに3v3+2フリーマンを行い、山崎氏から「釧路の未来は明るい」と褒められました。ただし、このトレーニングの本質を我々が理解していれば、さらにより現象を引き出せたはずです。そういう意味では、我々自身がもっと「サッカーを知る」必要があります。

U-11のトレーニングでは、より顕著でした。「ゴールを目指すパス」がテーマでしたが、最初のパス&コントロールのトレーニングから、課題が出ました。ほとんどの選手のパスが目標から30cm以上もずれている、受ける選手のタイミングが全くあっていないなどです。（中にはボールが止まらない、蹴ることができない選手もいました。）パス&コントロールは普段のトレーニングの積み重ね、繰り返しの中で獲得していくものです。サッカーの基本（「止める・蹴る・運ぶ」）は、選手が意識を高く持ち、指導者が積極的にはたらきかけて初めて獲得できるものです。毎日の練習の中で選手がどれだけ、指導者がどれだけ意識できているかが重要です。サッカーの基本を高めていくにはよい習慣づくりが重要です。U-11トレセンの選手は決して意欲が低い方ではありませんが、パスの質を見ているだけでも普段の様子が窺えます。

JFAアカデミーのトレーニングを見ていると、選手は当たり前ですが非常に集中しています。列の後ろで、トレーニングの中でそのトレーニングをいかに旨くやるかを常に考えています。コーチの言葉を聞き逃さないように、仲間の選手がフリーズされている所を見逃さないように。よい選手になるということはプレーが上手であると同時に高い吸収力をもつということです。

「選手は指導者の鏡」ですから、普段のトレーニングからどれだけ選手に高い意識を持たせ、取り組ませているかが大切です（話を聞く・トレーニングやゲームを理解する・積極的にプレーで表現する等、それは学校の授業と変わるところがありません）。いい加減にやっている選手はいい加減なプレーしか身に付かないのです。ですから、まず、我々指導者自身がトレーニングに集中して質を求める姿勢（選手を待たせない、飽きさせない等）を持つ必要があるし、それを毎日の練習の中で、繰り返し培っていく必要があります。「育成年代の指導は、しつけ」なのです。



[3v3+2フリーマン]

グリッド：25m x 25m

フリーマンは常に攻撃側

コーンに当てたら相手ボール

同色へのパスはなし

【key factor】

- ・ポジショニング
- ・観る
- ・パスの質
- ・コントロールの質
- ・スペースをつくる、使う
- ・Gapの共有
- ・切り替え
- *よいバランスは？